



巻頭言

老春 戯言

ろしゅんの
たわごと

No.004 戦争と平和

最

最近、日本でも軍備増強論がまきびすしい。やはりロシアがウクライナ進攻で毎日のようにテレビで見せられると、平和志向の人も心が揺れるのだらう。岸田首相が新たな国家安保戦略など三文書を閣議決定。世界は歴史的岐点にあり、協調と分断、協力と対立が複雑に絡み合う時代に入っているとしている。五年間で防衛力を抜本的に強化する四三兆円の防衛力整備計画を実施する。不足分は増税で賄うという。

テレビに登場する多くのコメンテーターは応援団よろしく日本の軍備強化を声高に発言している。攻撃を受ける前に敵基地をたたかうという。武器の多くはアメリカからの輸入に頼る。

先の戦争前の様相と同じだ。国民は赤紙令状に怯えながらも男たちを戦場に送り出した。その実態は軍が書類焼却を命じたため、ほとんど知られていなかったが、富山県のある村の戸籍係が隠した資料をもとにNHK取材班・小澤眞人氏によって『赤紙』男たちはこうして戦場に送られたにまごめられ、その端が伝えられた。

世のコメンテーターや政治家は自分たちの家族に赤紙がきた時どうするか。当時は公務員をはじめ招集延期制度によって招集を免れた人や職業も少なくなかった。多くの若い命はイヌ死と同じだった。もう一度、平和を考えよう。

文 写真：岡田 清治

FAX: 0569-34-7971

メール: hiromitsu@akai-shinbunten.net

読者の方々のご感想、意見、コメント等を上記のFAXかメールでお寄せください。一緒に考えます

SEIJI OKADA
岡田 清治

1942年生まれジャーナリスト (編集プロダクション・NET108代表)

著書に『高野山開創二百年 いっぱいさん行状記』『心の道楽』

『あなたは社員の全能力を引き出せますか!』『リヨンで見た狐』など多数



